

総合的な学習の時間 活動案

日時 平成18年10月17日(火)2校時
児童 旭川市立近文小学校 5年1組
男子15名 女子13名 合計28名
指導者 清水 忠 明

1 単元名 「共に生きる」～車いすで生活する方々との交流を通して

2 単元について

(1) 単元設定の理由

私たちの社会には、「障がい」をもっている人、高齢者、子ども、外国の人々など、いろいろな人々が生活している。様々な立場で生きる人々と共に暮らし、よりよい社会を実現していくためには、それぞれの人のよさや違いを受け入れ、暮らしの中の権利や一人ひとりが生き生きと暮らしていくために必要なことを考え、行動していかなければならない。しかしながら、児童の日常生活においては、比較的人間関係に広がりがなく、特に高齢者や幼児、「障がい」をもっている方々との接点は少ない。障がいをもっている方々の中には、向上心をもち工夫しながら日々生活している方々も多く、そのような方々の姿から私達も学ぶことは多い。

(2) 児童の実態

5年生の児童は1学期の総合的な学習の中で6月から収集方法が一部変わった旭川市のごみの現状についてリサイクルという側面から学習を進めてきた。課題解決では、課題別グループに分かれて追究活動を進めてきた。しかしながら、課題追究の中で新たな課題や疑問に気づき、思いを巡らせたり、積極的に物事に関わっていこうとする意識は高まっていない。

福祉の学習については、3年生で「手話について考えよう」、4年生では「目が見えないということ」の中で経験している。特に、4年生の学習では、実際に点字を作ったり、読みとる体験をするなど、相手の立場になって物事を考える経験をしている。本単元の事前調査では、全員が車いすを使っている方々を実際に見たことがあると答えている。その様子を見て感じたこととしては、「大変だ」「かわいそう」と感じている子どもがほとんどである。中には、「がんばっている」「車いすがあればどこにいくのも同じだ」「自分にできることはないか」と共感的にとらえている子もいる。

(3) 指導観

そこで、本単元では、実際に児童が車いすを利用する体験活動を設定し、車いすを利用する方々の立場になって考えることによって意欲的な追究活動を展開したい。また、実際に車椅子を利用している方をゲストティチャーに招いて交流することで、児童の課題意識を連続させていきたいと考える。さらには、個々がもっているすばらしさや可能性に触れ、互いに向上心をもって生きることのすばらしさなど、よりよく生きるための豊かな人間性や社会性を培っていきたい。

3 単元の目標

- 障がいのある方との交流や車いす体験などを通して、車いすで生活することについて意欲的に考えることができる。 (見つけ解決する能力や態度)
- 障がいのある方との交流や車いす体験などを通して、自分の考えを深めたり、互いのよさを認めることができる。 (他とかかわる能力や態度)
- 学習で学んだことを生活にいかし、地域の一員として自分にできることを考え、進んで実行していこうとする意欲をもつことができる。 (学びを生かす能力や態度)

4 活動の構成

道徳資料 「オトちゃんルール」は「あたりまえ」のルール

第1次

実際に車いす体験をしてみたい。

車いすを体験してみよう

車いすで生活するってどんなことだろう。

車いすの使い方は？

校内で体験してみよう

体育館に車いすがあったよ。

意外と簡単に動くよ

玄関・トイレ・2階3階へは？・段差は？
・通りづらいところはないかな？

段差があると進めないね

でも、思う方向に行けないよ

学校に車いす用のトイレがあるね。

毎日どんな生活をしているのかな？

発表交流

生活で大変なことはないかな？

実際に外での生活も体験してみよう

- 車いすに乗って公園を利用できるのか。 ○車いすでバスは乗れるのか。
- 車いすに乗ってスーパーで買い物ができるか。 ○商店は車いすで入っていけるか。
- 車いすで生活館は利用できるのか。 ○歩道や横断歩道は利用できるのか。

車いすを体験してみよう

スロープやエレベーターが
ついて利用しやすかった。

段差があって思うように進めなかった。

歩道は思うように進めなかった。

校外でも体験してみよう

高いところにあるものに
手が届かなかった

施設の中はせまくて進みず
らかった。

いろいろな人に見られた。

実際に車いすを使って生活している方に聞いてみよう

車いすを利用されている方にとってはそれほど大変じゃないんだね。

不便なことは工夫して生活しているんだね。

車いすに乗ってマラソンやクロスカントリースキーもやっているんだ。

階段などの段差は大変なんだね。

車いすに乗っていてもがんばっている人が大勢いるんだね。

第2次

さんのように目標をもって生活されている方々について調べてみよう。

- パラリンピック
- 車いすマラソン
- 車いすでもできるスポーツ
- 様々な分野で努力されている方々

発表交流

すごい人がたくさんいるんだね。

車いすでもできるスポーツはたくさんあるんだね。

私たちが調べたことを聞いてもらおうよ。

実際に車いすを使って生活している方に聞いてみよう

障がいをもっていても努力している人がたくさんいるよ。

身近にも努力している人がたくさんいるね。

運動だけではなくいろいろなことにがんばっているね。

自分もさんのようにがんばりたい！

第3次

学習してきたことともに考えたことを交流しよう

作文・新聞

発表交流

こんな自分になりたい

こんな旭川になればいいな。

不便だけで自分たちもなにも変わらないんだ。

困ったことがあれば自分のできることをやろう

さんのように自分も目標をもってがんばりたい。

障がいのある方でも進んで交流できる自分でありたい。

5 活動計画（全34時間扱い）

| | 主な学習活動 | 教師の支援～ ・評価～ |
|--------------------|---|---|
| 第一次 車いすを体験してみよう | <p>道徳『「オトちゃんルール」は「あたりまえ」のルール』を振り返り、車いす体験の計画を立てる。</p> <p>車いすについて説明を受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 専門の方（ボランティアセンター職員） <p>校内で車いす体験を行い、気づいたことや感じたことを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 玄関 ・ トイレ ・ 2階3階 ・ 体育館 ・ 各教室 など <p>気づいたことや疑問から課題を設定する。</p> | <p>車いすについて興味・関心をもてたか。</p> <p>○ボランティアセンターの方から正しい車いすの使い方について教えていただく。</p> <p>○安全面に配慮する。</p> <p>車いす体験から課題を見つけ、今後の活動への意欲をもてたか。</p> |
| | <p>課題の解決の方法を考える。</p> <p>近文地区の公共施設などで、実際に車いす体験を試みる。</p> <p>《予想される施設》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 生活館 ・ コンビニエンスストア ・ 郵便局 ・ 銀行 ・ 歩道 ・ 横断歩道 ・ 公園 ・ 大型スーパー ・ 商店 ・ 飲食店 など <p>車いす体験したことをまとめ、実際に車いすを使っている方から実際の生活についてお話を聞く。</p> <p style="text-align: right;">（本時 12 / 12）</p> | <p>○安全面に配慮する。</p> <p>○施設の利用にあたり礼儀やマナーについて事前指導を十分に行う。</p> <p>目的意識をもって意欲的に車いす体験をしているか。</p> <p>○車いすを使っている方からお話をさせていただく。</p> <p>交流を通して車いすで生活することへの自分の考えを深めることができたか。</p> |
| 第二次 | <p>障がいをもちながらも目標をもって活動されている方々について調べる計画を立てる。</p> | <p>障がいをもちながらも意欲的に活動されている方々につて興味をもてたか。</p> |
| | <p>自分で考えた解決の仕方ですら追及・解決をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ インターネット ・ 資料 ・ インタビュー ・ メール ・ 手紙 など | <p>○適切な方法で追及できるようにさせる。</p> |
| | <p>追及・解決したことを発表する準備をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流方法（模造紙・パソコンソフト・新聞・実技体験など） | <p>効果的な方法を考えながら、発表に向けての取り組みを行うことができたか。</p> |
| 第三次 | <p>発表交流会を開き、まとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 車いすを使っている方から、お話を聞く。 | <p>交流を通して新たな疑問や課題に気づくことができたか。</p> |
| | <p>学んだことを生かし、これからの自分やこれからの旭川市について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 交流方法（作文・新聞 など） | <p>学習したことをもとにこれからの自分やこれからの旭川市について考えることができたか。</p> |
| | <p>自分にできることを発表したり、近文地区や旭川市のこれからのまちづくりについて提案する。</p> <p>活動の振り返りをする。</p> | <p>交流を通して互いのよさを見つけられたか。</p> |

6 本時の活動

(1) 目標

交流を通して車いすで生活することへの自分の考えを深めることができる。

(2) 展開

| | 児童の活動 | 教師の支援()評価() |
|---|---|--|
| つかむ | 1 前時までの学習を想起する。 | 車いす体験の様子を撮影した写真、車いすを準備し、前時のことを想起させる。 |
| | 2 本時の学習について理解する | 本時の学習を確認する。 |
| <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 車いすで生活するという事について考えよう </div> | | |
| と り く む | 3 体験メモをもとに体験した感想を発表する。 ・大変だったこと ・車いすに乗って感じたこと など | 体験メモをもとに、わかりやすく発表させる。 要点ごとにまとめて板書する。 ○車いすを用意して具体的に説明させる。 |
| | 4 車いすを使っている方から、実際の生活について ・お話を聞く。 ・児童の体験活動について ・実際の生活について(新聞記事など) | 車いすを使っている方から実際の生活について、お話をしていただく。 話や新聞記事から生き生きと活動する姿に気づかせる。 |
| | 5 お話を聞いて意見交流をする。 ・車いすを使っている方への質問 ・お話やVTRから気づいたこと ・車いすで生活されている方について など | 車いすを使っている方にも目標をもち、生き生きと生活していることに気づくことができたか。 (発表) |
| まとめ | 6 本時の学習を振り返る。 ・本時の学習について振り返る。 | 次時の活動の確認をする。 |

(3) 評価

交流を通して車いすで生活することへの自分の考えを深めることができたか。